

## 神戸21世紀・復興記念事業「すまい・まちづくりフェア」イベント 「路地・まち再生パネル展」の開催

建築やまちづくりの専門家と神戸市住宅局などが協働し、路地整備からのまちづくりに取り組んできた成果を展示する「路地・まち再生パネル展」(路地・まち再生サポート会議主催)を平成 12 年 5 月 1 日(月)から 5 月 30 日(火)までこうべまちづくり会館 1 階ロビーで行います。

阪神・淡路大震災により、戦前から市街化の進んでいた既成市街地は大きな被害を受けました。この既成市街地では、向こう3軒両隣といった小さなコミュニティのまとまりから、住民の方々の話し合いでまちづくりを進めることが、21世紀に持続してゆく安全で安心なすまい・まちづくりにおいて、より重要な役割を果たすと考えられます。

「路地・まち再生サポート会議」は、この既成市街地の再生にたずさわる専門家の連絡会議として平成11年度に発足し、事業研究や勉強会など、活動を続けています。

この度、その一環として「路地・まち再生パネル展」を開催し、これまでの活動の状況や成果を紹介します。



(灘区泉通5丁目・整備前)



(整備後)



(長田区长楽町3丁目げっけいじゅ通り)

### 「路地・まち再生サポート会議」の概要

#### (1) 構成メンバー (約45名)

- ・長田区コミュニティアーキテクト
- ・灘区コミュニティアーキテクト
- ・いきいき下町推進協議会
- ・神戸市住宅局

#### (2) 活動内容

##### ① 勉強会

路地・まち再生に関連する専門的な制度や業務内容について研修する。

##### ② サポート会議

地元アドバイザー、コンサルタントとして派遣されている専門家による意見交換や他の専門家によるアドバイスを行う。

# 市民安全推進員による『安全で安心なコミュニティ活動』報告 (兵庫区東山地区、長田区真陽地区)

平成12年3月25日(土)、兵庫区の夢野地区地域福祉センターにおいて、また、平成12年4月16日(日)、長田区の真陽小学校で地域の住民によるコミュニティ安全活動―「災害図上訓練」―が実施されました。この取り組みは、いずれも、自分達で何をするかを考え、準備段階から実施まで自主的に行われました。その中でも、特に、市民安全推進員のリーダーシップ、働きが目立っていました。この取り組みを写真で簡単にご紹介いたします。

## 東山地区

コミュニティ安全マップづくりによって地域の課題や資源を把握しました。

## 真陽地区

### <吾妻委員長>

「東山地区は、震災や水害の経験をふまえ、他のコミュニティとの連携を図っています。」



### <正賀委員長>

「真陽地区は、『隣の人は何する人ぞ』ということのない、お互いに気遣いのできる下町です。」



災害図上訓練のはじまり、はじまり…

### <推進員の原さん、山田さん>

「阪神・淡路大震災の時とは違った季節(夏)、時間帯(昼間)で災害を考えてみました。」



### <推進員の安田さん>

「まさに今日(4/16)午前11時、突然、阪神・淡路大震災級の大きな揺れを感じました。」



災害の想定

### <第4ブロックの方々>

「×丁目のペンキ屋さん普段、シンナーを使っているので震災時は火災の危険性あり!」



### <推進員の木村さん>

「震災時、倒壊建物の下敷きになったお年寄りを救出できたのは、近所の若い人達の力が大きかったんだよ。」



被害の想定

### <推進員の浜西さん>

「わが班は、負傷者・火災・倒壊家屋への対応に必要な資機材・人員・情報を話し合いました。」



### <推進員の近田さん>

「アーケード内は火災発生時、煙が充満するので、避難経路は別の道を考えてみました。」



防災活動

### <兵庫消防署から>

「今回はレベルの高い訓練になりました。今後、まちを舞台にした災害想定訓練が実施できるといいですね。」



### <長田消防署から>

「火災が発生しても、ぼや程度なら初期消火により、地域の皆さんでも延焼を食い止めることが可能です。」



発表と講評

今後、どちらのコミュニティも“浮き彫りになった地域の課題”を解決するために、だれが何をすればよいか、などを日頃から考えておく話し合いの場が持てることを期待しています。

## 複雑系とまちづくり

### ●複雑系の科学とは

本稿では、最近の科学の分野であるが、難解・あいまいで、今ひとつ現実的でないとの印象から、これまで、注目されることが少なかった「複雑系の科学」と「広義のまちづくり」とを関連させて論じてみたい。

話は5年前の大震災にさかのぼるが、筆者は、大きなダメージに抗って社会と人間が再び立ち上がっていく様を実際に体験することにより、今までの社会システムや計画論が役に立たない局面が存在すること、そして、従来の社会科学、規範、倫理だけでは何か足りないことに気づき、震災関連業務が一息ついたところから、新たな哲学探しを始めた。震災にかかわった中で、ボランティアの目をみはるような活躍をきっかけに、ボランティア・NPO論や市民社会論という方向に行く人が続出したが、筆者は「複雑系」に行き着いた。

震災以降の神戸と未来の神戸を今までのパラダイム（※科学・思考の基本的枠組み）で語るができることはとても思えなかったのである。熱が高じて'99に複雑系研究のメッカであるサンタフェ研究所も訪れたのであるが、これはまた後述する。

さて、複雑系の科学の守備範囲は広く、進化・発生・免疫などの医学分野、経済・政治・都市問題などの社会工学系の分野から宇宙論まで、あらゆる分野で複雑系の視点に立った研究が行なわれている。

これらの研究の進め方は、ある問題に対する解答が演繹により一意に導かれるような世界ではなく、むしろ、物理的現実・現象とコンピューターシミュレーションの結果を対比し、観察しながら、知見を貯えていく世界であるといえる。問題と解答の関係はリニア（線型）でなくノンリニア（非線型）なのである。

### とりあえず複雑系を定義しよう。

#### ●複雑系とは

多数の要素からなるひとまとまりの集団(系)で、各要素が他の要素と絶えず相互作用する結果、全体としてみれば、部分の総和以上の独自の振る舞いを示すもの。複雑系においては、各要素の最適な居場所やI補ぎ状態は考えられず、平衡状態・最適化状態というものも無い。要素・要素間、要素・全体(環境)間のフィードバックは止むことがなく、絶えず新たな状態に向けて変化し続ける。

よく複雑系と対比される、「要素還元主義」という言葉がある。これは、全体を細かく構成要素に分解し、

その要素をとことん研究しつくせば自ずと全体像もあきらかになるという立場で、ニュートン以来の古典力学に端を発し、現在に至るまで、科学本体及び「科学的な…」と称するあらゆる社会的規範に悪影響を与えて来た。実は、複雑系の科学登場の背景には要素還元主義に対する大きな反省があった。

西洋の科学はニュートン以来、科学・哲学の切磋琢磨を経て複雑系にたどり着くのであるが、日本は明治以降の、いきなりの西洋思想の輸入以来、戦後は、要素還元主義が幅を利かせた時代であり、近代的科学的合理主義のもと、細部まで完璧を尽くした計画であれば完璧なものを作る事が出来るという信念が、復興と高度成長を支えた。これは、人づくりにも大きい影響を与えた。日本人の本質なのか要素還元型教育のせいなのか分からないが、要素還元型秀才が量産され、縦割りの世界を形成している。そういった状況に見える。

#### 【複雑系に至る道】

要は西洋科学史である。西洋科学史の流れは、本当は数学と哲学の対話を通じて大河となったのであるが、ここでは、おもに物理学と熱力学に焦点を絞ってみよう。（筆者は、日本の教育に欠けてるものは哲学領域であると考えているが…）

ニュートンは古典力学を創始したが、力点が3個以上の解にカオス（※混沌：秩序の反対の概念）が発生することを、太陽系の安定問題として、最初に言及したのはポアンカレであった。その後、アインシュタインが慣性系を相対化し、古典力学は彼の相対性理論で完成するが、'60代に、ローレンツが気象シミュレーションの解にカオスが発生することを再発見し、これが、その後カオス、カタストロフィ、自己組織化臨界等の研究へと進んでいく。あとで分かることだが、こういった研究の流れは、秩序の研究から複雑系の領域へとアプローチしたものといえる。

カタストロフィの研究では、一定以上のストレスがかかった秩序が一瞬にして崩壊し、新たな秩序に置き変わるときの位相空間の変化について調べた。

自己組織化臨界とは、例えば、砂を地面に少しづつこぼしていけば砂山ができるが、ある高さ以上になると自動的に崩れて、一定の高さ以上にはならない仕組みを研究する。前者は政変や株価暴落、後者は例えば都市の成長管理などに一定の知見を与えた。

面白そうでしょう。（以下次号）

森田 拓也（市民局市民活動支援課主査・前中央区役所市民部総務課地域活動係長）

# まちづくりセンター ライブラリーニュース

こうべまちづくりセンター図書室  
 まちづくり会館 4階・TEL 361-4523  
 開館時間 午前10時～午後6時  
 休館日 水曜日・年末年始

## 新着図書のご案内

	図書名	著者・編者	発行元	発行年月
1	関東大震災と復興記録	横浜市企画局	横浜市企画局	1996年5月
2	阪神大震災 神戸復興誌	神戸市震災復興本部 総括局	神戸市	1999年1月
3	阪神大震災 私たちが語る5年	阪神大震災を記録つづける会	神戸新聞総合出版センター	1999年7月
4	阪神大震災はや5年まだ5年	産経新聞大阪本社	学芸出版社	2000年1月
5	阪神大震災研究4 大震災5年の歳月	神戸大学震災研究会	神戸新聞総合出版センター	1999年12月
6	阪神大震災と経済再建	藤本 建夫	勁草書房	1999年8月
7	阪神大震災と生活復興	高寄 昇三	勁草書房	1999年5月
8	まちづくりガイド NO.130 (官民共同で考えるまちづくり)	ビュープロ 協力 通産省	民間活力開発機構	1999年11月

当センターにふさわしい、図書・資料をご紹介します。担当：調査係、橋本まで。

## まちづくり会館からのお知らせ

### こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容	主 催
5月4日(木)～9日(火)	木曜会絵画作品展(油彩)	木曜会
5月11日(木)～16日(火)	ぶどうの会作品展(油彩)	田所教室
5月18日(木)～23日(火)	第4回パレット展(洋画)	NHK神戸文化センター梶教室
5月25日(木)～30日(火)	燦月会油彩画展	大木 文雄
6月1日(木)～6日(火)	KOBEパステル画展(KP展)	KOBEパステル画会

### こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

5月1日(月)～30日(火)	路地・まち再生パネル展	住宅局住環境整備課
6・7月第2日曜 午後1時・3時	ペチュニアサロンコンサート	元町4丁目商店街・アスク音楽院 こうべまちづくりセンター

### すまい・まちづくりのご相談は

- すまい・まちづくり人材センター  
 (こうべまちづくり会館 3F)  
 電話 078-361-4377 FAX 078-361-4584  
 受付は、月・火・木・金曜の午前10時～午後5時
- 土・日・祝日は  
 まちづくり相談コーナー で受け付けます  
 (こうべまちづくり会館4F)  
 時間は、午前10時～午後5時

### 自治会活動などのご相談は

- コミュニティ相談センター(まちづくり会館4F)  
 会報等の印刷サービスや学習会へのインストラクター派遣など  
 受付:午前10時～午後6時(水曜・年末年始は休館)  
 電話 078-361-4565



〒650-0022

神戸市中央区元町通4丁目2-14

電話 078-361-4523

FAX 078-361-4546